

令和元年度 第1回

みどり市総合教育会議 会議録

令和元年10月25日 開会

令和元年10月25日 閉会

みどり市

令和元年度第1回みどり市総合教育会議録

令和元年10月25日（金曜日）

日程

令和元年10月25日（金曜日）午前11時開議

協議・調整事項

- (1) 総合管理計画個別施設計画との関連について
 - (2) 笠懸地区の学校給食提供方式のあり方について
 - ①概算経費の比較について
 - ②施設面等の比較について
 - ③地産地消等の比較について
 - ④アンケート結果について
 - ⑤自校方式の良さとセンター方式の取組について
 - ⑥総合教育会議のまとめとして
 - (3) その他
-

本日の会議に付した事件

日程に同じ

出席者（6人）

市長	須藤 昭男		
教育長	石井 逸雄		
職務代理者	金子 祐次郎	委員	松崎 靖
委員	山同 善子	委員	岩野 ひろみ

欠席者（なし）

傍聴（なし）

説明のため出席した者

教育部長	星野 和弘	教育総務課長	金高 吉宏
学校教育課長	三ツ屋 雄一	新設校準備室長	飯塚 慎一
新設校準備室 開校準備係長	黒澤 寿一	大間々学校 給食センター所長	瀬谷 亜矢子

事務局職員出席者

教育総務課総務係主査 剣物 雅世

◎開会・開議

午前11時5分開会・開議

○教育部長（星野和弘） ただいまから、令和元年度第1回総合教育会議を開催させていただきます。次第に沿いましてご挨拶をいただきたいと思っております。始めに、須藤市長よりお願いいたします。

◎市長挨拶

○市長（須藤昭男） 皆さん、きょうは、雨の中お集まりいただきまして、大変ご苦労さまでございます。

先週は、台風19号が東日本を襲って大きな被害が各地で出ているところでもあります。幸いみどり市においては、人的被害、住宅被害等々もなく、強風による倒木、あるいは土砂が道路、畑に流出したりするところが何箇所かあった程度でありました。

今、両毛6市の災害協定に基づいて佐野市が本当に大きな被害が発生しており、毎日、危機管理課の職員2名を派遣して、罹災証明の発行ですとか、さまざまなお手伝いをさせていただいております。

また、この間の22日の祝日には、職員15名を佐野市へ派遣して被災を受けた家財等々を搬出する場所での荷物の積み卸しのお手伝いをさせていただきました。今度の土日も若手の職員を中心に15名ずつ送って、少しでも被災地の協力を担えればという思いで取り組んでいるところです。

いつ、どこでどれ位の災害が発生するかわからない状況下でありますので、こうした危機管理体制をしっかりと捉えながらみどり市民の安全安心を引き続き守っていきたくと思っております。

また、教育委員の皆様方には引き続き教育という立場からのアドバイスをいただければと思っております。

きょうは、第1回の総合教育会議ということでありまして、この後、重要な案件等々についてもご審議をいただくことになるかと思っておりますけれども、それぞれの経験等々を活かしながら貴重なご意見をいただきますようお願いを申し上げながら私からの挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

○教育部長（星野和弘） ありがとうございます。

続きまして、教育委員会を代表しまして、石井教育長よりお願いいたします。

◎教育長挨拶

○教育長（石井逸雄） 皆さん、こんにちは。きょうは、須藤市長と教育委員との意見交換という意味での大事な審議ができる総合教育会議が開かれること、大変うれしく思っています。

本日は、懸案事項であります給食の提供方式に対する考え方というところの審議が深められる時間となりますことをお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○教育部長（星野和弘） ありがとうございます。

◇

◎教育委員自己紹介

○教育部長（星野和弘） これから、次第の3番、協議・調整事項に入るわけでございますけれども、令和元年度第1回の総合教育会議になりますので、ここで教育委員さん方の自己紹介をお願いしたいと思います。

最初に、金子教育長職務代理者からお願いいたします。

〔教育委員 自己紹介〕

○教育部長（星野和弘） ありがとうございます。

◇

◎協議・調整事項

（1）総合管理計画個別施設計画との関連について

○教育部長（星野和弘） それでは、次第の3番の協議・調整事項につきましては、この会議の主宰者でございます須藤市長に座長をお願いしたいと思います。

よろしくをお願いいたします。

○市長（須藤昭男） それでは、しばらくの間、座長を務めさせていただきます。着座にて進行させていただきます。

それでは、協議・調整事項の（1）総合管理計画個別施設計画との関連につきまして、教育委員会教育総務課から説明をお願いします。

○教育総務課長（金高吉宏） それでは、資料としましてはNO. 3とNO. 4をごらんいただきながら聞いていただければと思います。

財政状況については、資料NO. 3で硬直化というふうな面があるということです。資料NO. 4の5ページをごらんいただきたいと思います。総合管理計画個別施設計画に取り組んでいくという中で、具体的に給食等の関連性がある部分についてご説明いたします。5ページの一番左側が施設類型委員会の市民文化系施設からその他までございますが、真ん中の学校教育系施設という中で今回、一番は東学校給食センターの廃止という方向性が示されております。

その下の子育て支援系施設では、笠懸幼稚園が第1保育園との統合による認定こども園への移行という方向性が示されているところが、給食に関する大きなところとっております。

そのほかにも、学校教育系施設では、福岡中央小学校の大間々北小学校への統合、それから東中学校の小中一貫校による統合廃止等の方向性も打ち出されております。

こういったところが総合管理計画との関連ということです。

○市長（須藤昭男） ただいまの説明に対しまして、委員の皆様方から何かご質問等ございますでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） 学校教育系施設の中でみどり市立東中学校、これを小中一貫校により統合・廃止とあるのですが、これに関連して、右側に新設校建設とあるのですが、これは小学校と中学校を一貫にして校舎を建設するということでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 四角の中の新設校建設の捉え方としましては、主な廃止・統合等の部分の方向性のほかに新たに作り上げるものとして四角の枠の中に書かせていただきました。新設校建設につきましては、笠懸地区の小学校を分離・新設し、新しい施設をこの学校教育系施設の中でつくっていきますという意味でございまして、小中一貫校等の関係で新しい施設をつくるという意味ではございません。

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） わかりました。

○市長（須藤昭男） よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

松崎委員。

○委員（松崎 靖） 今、説明の中で笠懸第1保育園と笠懸幼稚園を認定こども園として開園するという、2つを1つにするという中で、どういったものが、条件として必要なのか幾つかあると思うのですが、その辺はどうか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（三ツ屋雄一） これについては、こども課と連携しておりますけれども、現在、認定こども園に移行していくというのが全国的に行われております。

幼稚園、それと保育園、それぞれの公共施設等総合管理計画の中で、幼児、園児等の数を見ていった場合、教育と保育を同じように行っていくほうが子供たちにとっても、保護者にとっても効果的でよいだろうという思いでこども園ということを想定して、こども課と話し合いをしているところです。

具体的な場所については、まだ決定はしておりません。こども課からすると第1保育園のほうがやりやすいのではないかという案も出ているそうです。統合しながら、市内の子供たちの公立である新しい施設としてつくろうということで、今進んでいるところです。

○市長（須藤昭男） 松崎委員。

○委員（松崎 靖） 認定こども園になると、教育委員会の施設ではなくなるということですか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（三ツ屋雄一） こども園になりますと、こども課が主管となります。ただ、幼稚園としての機能が残る教育の部分と保育の部分ということで、そこを一括で見えていくことができる施設で、当然、そこに携わる職員は、幼稚園の教諭と保育士、両方の資格を持った方々が携わることになります。

○市長（須藤昭男） 松崎委員。

○委員（松崎 靖） 認定こども園となった場合、その中で自校で給食室をつくらなければならないということですね。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（三ツ屋雄一） 保育園は、全て自校給食となっております。保育園では、同じ年代の子供たちが食べる給食ですから、給食の味や食材のカットの仕方、大きさ等、乳幼児から食べるものを少し気をつけながらつくっています。それと同じことがこども園も必要で、保育園にあったその給食施設をそのまま移行するというのが決まりになっております。

○市長（須藤昭男） よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

金子委員。

○委員（金子祐次郎） 今の関連するところで、認定こども園の給食というのは、教育部の管轄からメニューも内容も味も外れてくるという感じでよろしいのでしょうか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（三ツ屋雄一） はい。

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） わかりました。

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） ほかにないようですので、（１）総合管理計画個別施設計画との関連については、終了ということよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

（２）笠懸地区の学校給食提供方式のあり方について

○市長（須藤昭男） それでは、次に（２）笠懸地区の学校給食提供方式のあり方につきまして、教育委員会教育総務課から説明をお願いします。

○教育総務課長（金高吉宏） それでは、資料NO. 5をごらんいただきたいと思います。

1 ページが、概算経費面の比較、それから、2 ページが施設面等の比較、現状での比較です。それが2 ページ、3 ページです。それから、4 ページが地産地消等、アレルギー対応等の比較。それと、5 ページ、6 ページがアンケート結果ということで説明会、試食会等を行ったものです。それと、7 ページが自校方式をセンター方式に取り入れた場合の対応、可能性ということで記述をさせていただ

きました。8ページまでです。

9ページが、誤解と思われる意見、それから、笠懸自校方式をセンター方式に取り入れたときの内容の考察で、10ページが教育委員会の考え方ということで、示させていただいております。

ご協議よろしくお願いたします。(詳細説明は省略)

○市長(須藤昭男) ありがとうございます。資料に基づいて順次、確認をしたいと思います。

まず、始めに1ページの概算経費の比較について、委員の皆さん方からご質問ありましたら、お願いたします。

[少し間あり]

○市長(須藤昭男) 岩野委員。

○委員(岩野ひろみ) 1ページで幼稚園の下のところなのですけれども、自校方式の場合、給食調理場が校舎が遠くなる場合は、エレベーターまでの間に渡り廊下等の整備が必要となるのですけれども、もし、道路を挟んでしまった場合とかはどういう配送方式が考えられますか。

○市長(須藤昭男) 新設校準備室長。

○新設校準備室長(飯塚慎一) 敷地内に今駐車場、学校があると思うのですが、駐車場を潰して立て替えをさせていただいて、別の場所に駐車場を設けることとなりますので、調理場は学校敷地内となります。

○市長(須藤昭男) 岩野委員。よろしいですか。

[「はい」の声あり]

○市長(須藤昭男) ほか、いかがでしょうか。

[少し間あり]

○市長(須藤昭男) ないようですので、1ページの概算経費の比較については終了して、次に移りたいと思います。

次に、2ページから3ページ、施設面の比較について、委員の皆さんからご質問ありましたらご発言願います。

[少し間あり]

○市長(須藤昭男) 松崎委員。

○委員(松崎 靖) 施設の構造等についての中で、ドライ方式とウェット方式、現状は自校の場合、洗浄等でこぼれた水などで床が常に濡れた状態、センターの場合には、調理台、床が常に乾いた状態ということですが、ドライ方式を進めなさいとか、そういう指導というのはあるのですか。

○市長(須藤昭男) 教育総務課長。

○教育総務課長(金高吉宏) 学校給食衛生管理基準の中でドライ方式の運用に努めるようにというふうに規定されております。

○市長(須藤昭男) 教育長。

○教育長(石井逸雄) 今のところの中で、改修したり、建て替えるときはドライ方式という形が求

められているわけですがけれども、現状とすると、みどり市内の笠懸地区の小中学校の給食室というのは、皆さんも訪問してご承知のように校舎の躯体の中に入っておりますので、ドライ方式にするとどうしても床をあげたり、天井高が必要になったりということから考えていくと、現実問題とすると、あの調理場をドライ方式に改修していくことは、かなり難しいということで、もし、今後やっていくとなると新たに先ほどから出ている外に建て替えていった形でドライ方式にもっていくという形をとらないと現実的には無理だというふうに事務局としては捉えているということですね。

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

山同委員。

○委員（山同善子） 質問ではないのですがけれども、調理の差というところで、自校方式の焼き物がレトルトのボイルということが比較表を見てびっくりしました。

それと、ごはんについてもなんとなく自校だと炊きたてを食べていたのかなという印象がありますが、みどり市内では、自校方式もセンター方式も同じなのですね。

○市長（須藤昭男） そのほか、ありますか。

大間々学校給食センター所長。

○大間々学校給食センター所長（瀬谷亜矢子） 施設の大きさという部分が大きく影響してくるものもありますけれども、笠懸地域では、魚を焼く機械自体を設置する場所がないので、笠懸で使っているものは一度焼いてある魚を真空で処理し、それからボイルして提供するというような形です。

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

山同委員。

○委員（山同善子） 災害対応というところで、自校方式だと炊き出し利用が可能なのですか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 給食室が使える状態であれば、そういったことも可能であるということです。そこが被災してしまった場合には、難しいと思います。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） 炊き出しという部分で質問したのですが、学校は調理室がありますよね。調理室は、炊き出しに使うことできるのですか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） もちろん家庭科室とか、そういったところについても炊き出しができます。災害が起こったときには、そこを使うということです。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） わかりました。

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、ないようですので、施設への比較については終了して、次に移りたいと思います。

続きまして、4ページ、地産地消等の比較について、委員の皆さんからご質問等ございますでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

山同委員。

○委員（山同善子） アレルギー対応のところについては、保護者の方から見たときに、やはりアレルギーについての対応というのをしていただけるのなら本当にありがたい部分だと思います。

集約というか、1か所でやることによってアレルギー対応食ができる部分がふえてくるということがあるとすれば、それはとても良いことだなと思います。

○市長（須藤昭男） これまでは、自校方式もセンター方式もアレルギー対応の給食はやっていないのですか。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。一部、牛乳につきましては、アレルギーの方には麦茶に代えて対応しています。

○市長（須藤昭男） やらうと思えば、できるわけでしょう。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。体制を整えばできるようになるということと、学校との連携という部分がしっかりできれば可能というふうに考えます。

○市長（須藤昭男） ニーズはあるわけですね。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。

○市長（須藤昭男） ニーズに対していつぐらいから応えられるのですか。そこら辺の議論もしていますか。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。今、議論を始めさせていただいて、令和4年4月に新設校開校に向けて、アレルギー対応も少しずつできる体制を整えられるように協議の中で議論を進めています。

○市長（須藤昭男） 令和4年4月の学校がオープンするときには、市内にアレルギー対応もできるということですか。

教育長。

○教育長（石井逸雄） その中で一番事務局も心配していることは、アレルギー対応は個々に対応し

ている部分があるものですから、アレルギー対応専用の栄養職員や調理員が必要になってくるという部分がどうしても必要となってまいります。

課長が先ほど申し上げましたように段階的に令和4年までにという中においては、人的な部分というところが非常に大きな要素として出てくるというところになると思っておりますので、先進地域の状況を把握して、できるだけしっかり計画を立てて進めていけるようにということで、今調査を進めているということが現状でございます。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） 少し戻りますが、概算経費の部分にアレルギー対応の要因となる人件費は入っているのですか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） アレルギー対応の人件費は含まれておりません。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） そうすると、それは入れる必要があるのでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 今後、アレルギー対応で例えば栄養士、調理員がどれくらい必要かという部分の調査を始めたところございまして、まとまった金額というのは算定しておりません。いろいろなパターンがございますので、その辺をもう少し時間をいただきながら検討していきたいと思っております。

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

松崎委員。

○委員（松崎 靖） 地産地消というと新鮮なイメージがあるのですが、野菜に関して言うと、地産地消とはいえ生野菜は、提供できているのですか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 給食を提供する上においては、給食の制度として火を通すこととなっております。生野菜をそのまま出すということはできない状況です。

○市長（須藤昭男） 松崎委員。

○委員（松崎 靖） それは、全国の給食がそういうことですか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） ほか、どうでしょうか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） ほかにないようでありますので、地産地消の比較については終了して、次に移りたいと思います。

続きますと、5ページから6ページのアンケート結果について、委員の皆さんからご質問等ありましたらご発言願います。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） よろしいでしょうか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） 教育長。

○教育長（石井逸雄） アンケート結果につきましては、この結果をしっかりと返していくということも必要でしょうし、それから、見ていただくとわかりますように幼稚園については、自校方式が良いという意見も多いところもございますので、そういう意味では、今後結果が出るという形になった場合、そこも含めて丁寧に説明して、理解を求めていって令和4年を迎えるという作業をしていく必要があります。

これについては、今後の教育委員会議の中においても、順次、協議をさせていただいて、そして、該当する保護者の皆様、地域の皆様には説明していく必要があると捉えております。

これは、あくまでも現段階でのアンケート結果ということでの捉え方で、これで終わるわけではないという認識で進められればと思っておりますので、皆さん方にもよろしくお願ひしたいと思っております。

○市長（須藤昭男） よろしいでしょうか。

山同委員。

○委員（山同善子） アンケートの結果の中から、6ページになりますけれども、自校方式を支持する理由の中の「食育」であったり、センター方式を支持する中の「設備面や衛生面」、それから、方式にこだわらないとする理由の中の「安全・安心」、こういう言葉がキーワードになるのかなと感じました。

○市長（須藤昭男） 特に、回答はよろしいでしょうか。

○委員（山同善子） こういう中からキーワードをうまく保護者の方に話をさせていただければと思います。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 今、おっしゃった部分については、今後説明するときには、こういったところを重点的に説明させていただければと思います。

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） ほかに、いかがでしょうか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） それでは、ほかにないようでありますので、アンケート結果につきましては終了して、次に移りたいと思います。

続きまして、7ページから9ページの自校方式の良さとセンター方式における取組状況について、委員の皆さんからご意見ございますでしょうか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） 自校方式、センター方式、それぞれ良いところがあるのですが、センター方式へ変更するに当たっては、自校方式の良いところを反映させていく。その上で、センター方式だということが読み取れる形を具体的に示していくと良いのかなと思います。

「○」については、できるということで、より具体的に具体策を提示していくことがこれから求められると思います。「△」については、できる限り近づけるような対応、対策をしていくことが必要だと感じておりますので、ぜひそんな説明ができるようにしておいていただけたらと思います。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 自校方式の良さとして示された内容を、みどり市の給食センターでも取り入れることができるという説明をしていけたらと思っております。

○市長（須藤昭男） 教育長。

○教育長（石井逸雄） この5番の自校方式の良さとセンター方式における取組状況のところの「自校方式の良さとセンター方式での対応の可能性」という一覧表については、特にこれまで教育委員会議で皆さんに論議をしていただいた中で、自校方式の良さというのを私たちがもう1回再認識しましょうというところからスタートしてきたことであります。

そのために、事務局でアンケートの中の自由記述をひとつも漏らさず確認して、それらを類型化しました。自校方式が「こういうところが良いところだよ」とおっしゃられた市民や保護者の皆さんの意見を整理して、それがセンターで実現できているのか、できないのかというところを比較してつくった表であります。

教育委員会としては、自校方式の良さもきちんと認識した上で、新たな形での給食センターということで提案できないかというところで、皆さんからの意見を集約した形というところでもあります。

今、職務代理者からもありましたように、この表だけではなくて、ここから出てくるところも私たちが目指すところの給食センターの姿、「こうなりますよ」という形のものに少し集約したものがあると、より訴えやすいというご指摘かなと思っておりますので、そこは早急に事務局のほうで整理をしていきたいと思っております。

ですので、大事な部分でありますので皆さんから見ていただいたときに、この記述でどうかというところも含めて、またお話をいただければ修正をかけていきたいと思っております。

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） アレルギー対応についてなのですけども、アレルギーは個々にいろいろあつてすごく複雑で難しい対応なのだということ、今までお話してくる中で勉強させていただいているのですが、具体的にどの辺から手をつけられそうでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 今、アレルギー対応は多様になってきておりますので、本当に何ができるかというところで、アレルギー対応の一番多いという卵を代替食に変えるとか、何か別のものを作り替えるとか、そういったところで、まずはできるところから始めていきたいなと思っております。

全部を完全にアレルギー対応することは難しいことでもありますので、今の現状でできる範囲、これだけの人数でこれができるとか、この中でできたら、次に何ができるのか、段階的に考えていきたいと思っています。

○市長（須藤昭男） 大間々学校給食センター所長。

○大間々学校給食センター所長（瀬谷亜矢子） 段階的にというところで考えていますが、今現在、牛乳を麦茶に変更しております。現状でも、アレルゲンの少ない食材自体を選ぶような形で栄養士が、食材選定をしておりますので、そこでも一歩対応ができていのかと思います。

乳のアレルギーの子へは麦茶、緑茶というところがありますので、例えば、乳をゼリーに代えとか、そういうのも可能かどうか、その後で、食材一品というところを段階的にできると一番良いのかと栄養士とも話をしているところです。

○市長（須藤昭男） どうでしょうか。よろしいですか。

[「はい」の声あり]

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

松崎委員。

○委員（松崎 靖） 自校方式の良さとセンター方式での対応の可能性という一覧表を見ますと、1番から10番までの中で、8項目については「○」がついていて、2項目が「△」ということなのですが、9番の「親が自校方式で育った環境を子供たちにも味あわせたいと感じる」は、どうにもやりようがないと思うのですが、3番の「子供たちと調理員との距離が近い分愛情が伝わると感じる」という点は、センター方式での対応状況の中にもありますが、その辺が一番、努力をしてよりよいものにしていくという可能性があると思うのですよね。

先ほど、山同さんが言われたように自校方式の良さを活かしたセンターみたいな、今まで笠懸の自校方式が長い間やってきた文化ということもありますけれども、そういうものの良さを活かしてさらに良さを積み重ねていくという意味では、ただ、通常のセンター方式を取り入れるということよりも、「こういう自校方式の良さがたくさんあった」という、それを活かす形で、「この部分は取り入れましょう」「これも取り入れましょう」という形でできていったら、良いものができるのではないのかな

と思います。

そういう意味では、対応の可能性というのをより参考にして活かしていければ良いのかなと思います。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 我々も「△」のところは、どこまで距離感を縮められるかというところが一番大きなところだと思っています。

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） それでは、ほかにないようでありますので、自校方式の良さとセンター方式における取組状況は終了して、次に移りたいと思います。

それでは、第1回総合教育会議のまとめに入りたいと思います。10ページをごらんいただきたいと思います。

教育委員会の考え方が示されております。委員の皆様方から何かご意見、ご質問等ありましたらご発言いただきたいと思います。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） 教育長。

○教育長（石井逸雄） 皆さんの意見をお聞きしたり、事務局で進めている作業を見てきたりという部分の中では、この考え方でまとめていくという方向で事務局と連携しながら進めてきたのですが、今の話を伺っていくと、もう少しこの言葉の中に埋め込んでいかないと皆さんがこれまで論議してきた視点や思いという部分が、これだけだと薄いなというところで反省しております。

ですので、この教育委員会の考え方というところのまとめについても、例えば1段落と2段落のところについても、「自校方式の良さは理解できるのだけれども、一方で持続可能な…」とすぐ予算のところきている点は、しっかりと修正をかけていく。

それは何かというと、今現状ではこのような差がない給食ができてきているところもあるし、これからの差を埋めていくための手立てを行い、展望の持てる新しい給食センターとして展開していくのだという、今皆さんからいただいた思いをこの中にきちんと盛り込んで、最後のまとめにしておく必要があるなというところを強く感じ反省しているところであります。

この点については、これまでいただいた意見をこの中に活かされるように再度詰めていきたいと思っています。

○市長（須藤昭男） 今、教育長からの発言に何かご意見ございますでしょうか。

これは、原案ということできょう出された意見を加えていただいて、先ほど申し上げましたようにずっとその制度で慣れ親しんできている方々にとっては、制度が変わることに対しての不安があるのですから、良いところはきちんと引き継いで、自校方式からセンター方式になってもきちんと良い部分は積極的に取り入れてバージョンアップし、さらにきめ細やかな対応ができるのだという利点等々、

アレルギー対応も含めて「こういうことが可能になるのですよ」というので記述してもらえれば、不安も取り除けるのかなという思いがあります。

財政的な話、お金がないからどうだこうだとか、総合管理計画がどうだこうだというのは、我々のところの話でありますので、教育委員会議では、よりよい給食提供のあり方を示してほしいと思います。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） きょう出された建設的な意見を加えてもらうということで、また委員の皆さん方に提案ができたならお示しをして、ご理解をいただくということで作業を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、これまでの全体を通じて、委員の皆様方からご意見等がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） 松崎委員。

○委員（松崎 靖） 自校の給食とセンターの給食を食べ比べて、味はもちろん変わらないし、温かさも変わらないし、違うなど感じたのはプレートの数なのですね。

どうしても、自校だと限られた給食室で収納だとかということで制約があると思うのですが、どうしてもお皿の数が限られてしまってごはんの上におかずを乗せて食べなくてはならない。センターで提供される給食については、お皿の数が一つ多い。

そうすると、見た目だとか、何か食事を楽しむというか、ここにはごはんが乗っていて、ここにお味噌汁、ここにはおかずがあつてみたいなそういうものがとても大事なことになるのかなと思います。

食育だとか、食事を楽しむだとか、そういう意味では何か食べ比べたときにそんな印象を受けました。

○市長（須藤昭男） ほかに、何かありますか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

[少し間あり]

○市長（須藤昭男） では、ないようでありますので10ページの教育委員会の考え方につきましては、先程来話が出ているとおり、本日の審議の中で出された意見が反映されるよう修正し、改めて出すということでいきたいと思います。

基本的には、文面は改めてお示しさせていただくということでありますけれども、市長としても総合教育会議で、これまで議論をしてきました笠懸地区における学校給食の提供方式については、教育委員会の考え方を尊重して進めていきたいと考えておりますので、また、ご理解とご協力をいただければと思います。

よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、（２）笠懸地区の学校給食提供方式のあり方については、以上で終了させていただきますと思います。

（３）その他

○市長（須藤昭男） 続きまして、（３）その他でありますけれども、委員の皆さん方から、あるいは事務局のほうから何かありますでしょうか。

〔少し間あり〕

〔「事務局のほうからは特にありません」の声あり〕

○市長（須藤昭男） 委員の皆さんからは。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、ないようですのでその他についても終了させていただきます。

◎閉 会

○市長（須藤昭男） 皆さん方のご協力をいただきまして、本日の協議・調整事項については全て終了させていただきます。これをもって、令和元年度第１回総合教育会議を閉会させていただきます。ご協力、ありがとうございました。

午後０時１分閉会

